

3 症状から病態を推測

その他の皮膚疾患解説(外傷を除く)

しろうせいひふえん
脂漏性皮膚炎

皮脂分泌が活発な頭部、顔面、腋の下、胸部、背中の中中部などに生じる湿疹です。

【症状】

皮脂を好むカビ(真菌)が増殖して炎症を起こすといわれ、皮膚がポロポロむけたり軽度の痒みを伴うこともあります。フケ症もこの一つです。

【悪化の要因】

アルコールの多飲、紫外線、ストレスなど

【治療】

清潔にして、外用ステロイド剤を使用するのが一般的ですが、皮膚科医では抗真菌外用薬を使うこともあります。

● 乳児脂漏性皮膚炎

生後3カ月までは皮脂の分泌が多いため、頭に黄色いかさぶたがついたり、顔にブツブツができたりします。ベビーオイルかオリーブオイルでふやかすような状態にして、そっと拭き取り、弱いグレードの外用ステロイド剤を少し塗れば、すぐに治まります。

でんせんせいのうかしん
とびひ(伝染性膿痂疹)

夏に多発し掻き傷から広がりやすいので、アトピー性皮膚炎の子どもに多く見られます。

【症状】

主に黄色ブドウ球菌などの感染により、水ぶくれや化膿を起こします。火事の飛び火のように次々と広がるため「とびひ」と呼ばれます。

【悪化の要因】

夏は汗をかきやすく、不潔になりやすいことから悪化しやすく、さらにあせもや虫刺され、高温多湿の環境など、とびひを発症しやすい要因が多いため、注意が必要です。

痒みによって患部を触ったり、掻き壊したりすることで感染が広がります。鼻の穴には細菌が多いため、鼻をいじる癖のある子どもはよく鼻の周囲からとびひが始まります。

【治療】

痒みの除去が優先されるため、外用ステロイド剤により痒みを抑えて、抗生物質の外用薬や内服薬で原因菌を抑えます。他人にうつることも考慮し、シャワーを浴びるなど清潔にすることが大切です。

かんしん
あせも(汗疹)

首の周りや額などに赤いブツブツができます。

【症状】

汗が汗管から皮膚の表面にスムーズに排泄されずに供給過剰となり、汗管内に貯留して周囲組織に漏れ出るために生じます。乳幼児に多く発症しますが、成人でも急に多量の汗をかくと、キラキラとした透明な水疱(水晶様汗疹)がまれにできることがあります。

【予防】

汗をかいたらシャワーを浴びるなど、清潔にすることが大切です。

その他の皮膚炎

● シイタケ皮膚炎

シイタケに十分火を通さずに食べた時に起こる中毒症で、多くは1~4日以内に発症し、強い痒みがあります。また、掻いた跡が線状に点々と出血したように筋がつきます。

● リップクリームの過度な塗布による皮膚症状

唇は元々油分などを付ける必要のない部位のため、リップクリーム依存症といわれるほど頻繁に塗ると、唇の防衛力や抵抗力が弱まり、余計に乾燥をまねきます。リップクリームの使用は1日3回までとアドバイスしましょう。